

土木学会

選定映画報告

(4)

視聴覚教育委員会

1. 第8回選定映画審査会報告

日 時：昭和44年12月13日(土) 14.00~18.00

上映本数：5本(橋梁関係)

今回は「橋梁」関係の映画5本につき、審査委員会委員のほかに、東京大学 伊藤助教授、早稲田大学 堀井教授、日本国有鉄道 青戸・稲葉の諸氏に審査に加わって頂き審査を行なった。

選定作品

橋をつくる

(東名高速道路酒匂川橋建設記録)

(カラー・16mm・スタンダード・18分)

企 画：株式会社宮地鉄工所

製 作：株式会社三井プロダクション

○製作意図・対象

工事記録と会社のPR

○内 容

東名高速道路酒匂川橋脚の完成後、その耐震性を調査するためロケット噴射によるテストを行なった。その頃工場では設計、現寸、工場製作(けがき、溶接、切断、穴あけ、仮組立等)が着々と行なわれている。昭和43年7月には部材が搬入され、地上65mの橋脚上に斜めベントとトラベラークレーンによるカンティレバー工法を用いて架設が始まった。昭和43年11月下り線の中央部閉合、12月には上り線も閉合した。昭和44年5月26日、鉄筋コンクリート打ちも終り、快晴の富士山をバックに東名高速道路全線開通式が行なわれた。

橋梁関係の選定映画候補は、対象となる橋梁に注目すべきものが多かったにしては高い評価を与えうるものがなかった。内容に期待がもてそうな対象を扱ったものはまとまりや説得力に乏しく、比較的好くまとめられたものは企画者の宣伝臭が露骨にすぎるといった具合であった。選定に残ったこの「橋をつくる——東名高速道路酒

匂川橋建設記録」も、鋼橋上部構造の設計から架設までの過程を短い時間のうちに要領よくまとめられたという点で選定されたが、会社のPRが製作意図とはいえ、それが必ずしもスマートにこなされていないため、学会の選定映画としては審査の席で異論も多かった。しかしながら、鋼橋上部工の製作過程が酒匂川橋という特色あるトラス構造を主題にして要領よく説明されている点で、工事記録のみならず技術教育映画としても有用であろうと思われる。画面の色彩も好調である。

2. 第9回選定映画審査会報告

日 時：昭昭45年2月14日(土) 14.00~16.30

上映本数：4本(港湾関係・その他)

選定作品

本四連絡橋調査・プレパックド コンクリート実験

(カラー・16mm・スタンダード・15分)

企 画：日本鉄道建設公団大阪支社

製 作：日本映画新社

○製作意図・対象

プレパックドコンクリートの技術的解明

コンクリート技術者

○内 容

今までの実験ではほとんど解明することのできなかったプレパックドコンクリートの流動性状が日本ではじめて明らかにされた。日本鉄道建設公団の坂出における本四連絡調査、基礎調査実験のプレパックドコンクリート実験の一部とその結果を総称したものである。

色彩を効果的に使った示唆に富むユニークな方法で、施工レベルにおけるプレパックドコンクリートの流動性状解析を紹介している。この種のフィルムがきわめて少ない現状からみて、多くの土木技術者の興味をそそる貴重な企画である。ただ、1次試験から現寸2次試験へ移る必然性について相当省略されているので、学校教育用としては、安易に現寸試験を認めてしまう難点がある。

供試体データの出し方、透明板のぞき窓等によるモルタル挙動の動的描写、結果に対する考察の表現法などにさらに工夫をこらした3次試験のフィルムが期待される。